



電力事業でまちづくりに貢献 — 京都ライフラインソリューション株式会社 —

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、平成29年度より新たに賛助団体として当財団の運営にご協力いただいている京都ライフラインソリューション株式会社です。代表取締役の藤井洸成さんにお話をうかがいました。



藤井 洸成さん

どんな会社ですか？

京都ライフラインソリューション株式会社は、京阪地域の発展を願う地元企業のご出資・ご協力を受け、2017年夏に設立した新電力会社です。株式会社ハルエネと京都ライフラインソリューション株式会社がタッグを組んで協力し、地域創生プラン「京都でんき Produced by HALUENE」が誕生しました。「京都でんき」は京阪地域にお住まいの方だけが申し込みいただける、地域限定のお得な低圧電力プランです。電気の品質や利用環境はそのままでありながら、低価格な電気代を実現させ、コストカットにつなげることが可能です。ゆくゆくは、電力事業に加えて、さまざまなサービス、生活インフラを提供することで、地域に関わるすべての人に満足してもらいたいと考えています。

電力事業でまちづくりに貢献！

当社は、皆様の電気ご利用料金から得られる収益の一部を京都の各種団体、自治体への寄付や支援に用いることで、地域の活性化につなげることを目指しています。具体的には、地域のスポーツ振興、児童養護施設への寄付、青少年の健全な育成に関する事業の支援、起業支援を通じた経済活性化、寺社仏閣の修繕、京町家の保全・継承、行政への寄付などを想定しています。

なぜまちセンの賛助会員に？

京都市景観・まちづくりセンターでは、住民、企業、行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていくパートナーシップのまちづくりを推進しているということを知り、その活動趣旨に共感したので賛助会員になることを決めました。特に、京都のまちの歴史・文化の象徴である京町家が適切に保全、再生、継承されるための各種事業を行っている点に期待しています。一つ要望を挙げるとすれば、他の賛助会員とも交流できる場があるとよいと思います。

聞けば、京町家は、京都らしい町並みをかたちづくる大切な要素でありながら、年々その数は減少し、さまざまな改修を経て姿を変えてきたとか。こういった支援を通して、京都のまちづくりに貢献できればと思います。



マスコットキャラクターのハルオくん
画像提供：京都ライフラインソリューション株式会社

京都ライフラインソリューション株式会社のホームページ
<http://kyoto-lls.jp/>

平成30年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体のみなさま

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP: <http://kyoto-machisen.jp>



Facebook

HP



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。



京まち工房

82

パートナーシップで
進めるまちづくり



特集
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
設立 20 周年記念特集
(P2-6)

祝！まちセン20周年



賛助会員募集/スタッフのつぶやき

7

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター設立20周年記念特集

シンポジウム「文化による地域創生とまちづくりの未来」 守りたい 生きたまちの魅力



まちづくりの新しい潮流について、文化、歴史、景観、観光を基軸とした地域創生、持続可能なコミュニティの形成をキーワードに、財団設立20周年記念シンポジウム「文化による地域創生とまちづくりの未来」が11月25日に開催されました。各界で活躍中の方をお迎えして講演とトークセッションを開催し、京都のまちづくりの未来について意見を交換しました。



- 日時** 平成29年11月25日(土)
13時30分～16時30分
- 場所** ひと・まち交流館 京都 2階 大会議室
- 基調講演** 近藤 誠一氏
(近藤文化・外交研究所代表、元文化庁長官)
- 特別講演** 吉良 森子氏
(moriko kira architect主宰、在オランダ建築家)
岩村 水樹氏
(Google アジア太平洋地域ブランド & マーケティングマネージングディレクター兼 日本法人専務執行役員CMO)
- 司会** 若村 亮氏
(株式会社らくたび代表取締役、京都学講師)
- 参加者** 113名

20年のあゆみとこれから

初めに京都市景観・まちづくりセンター(以下、まちセン)の青山吉隆理事長が、感謝の言葉とともに20年のあゆみを振り返りました。まちセンの活動の軸である地域まちづくり活動支援と京町家の保全・再生活動が京都のまちづくりに果たしてきた役割をご紹介します。「まちづくりの環境は、外国人観光客の増加、情報化など、急速に変化しつつあります。従来と違った新しい形の連携が求められ、まちセンの役割はますます重要になりそうです」と今後の展望に触れ、さらなる活動の充実に取り組む決意を述べました。



青山吉隆理事長

重要な役割を担う地域

続いて近藤誠一さんが、「地方創生の鍵としての文化：京都の魅力」と題してご講演されました。グローバル化が進み、国家の役割にほころびがみられる現在、地方都市や地域が重要な役割を担うようになりました。近藤さんは、その点で京都を「世界でもまれにみるすばらしいまち」と表現されました。日常生活の中で洗練された文化に触れることができるためです。「自然と文化財と人々の生活のバランスを保つため、行き過ぎた近代化の波から伝統を守らなければならない。それは京都の義務」と指摘されました。文化庁の京都移転にも触れ、「京都の力を文化政策に反映してもらおうチャンス」と締めくくられました。



近藤誠一氏

未来も含めて形づくる

特別講演ではまず、吉良森子さんが、「アムステルダム-生き続ける町をつくる」と題してご講演されました。吉良さんは大学院生の時、オランダに留学し、古い建物やリノベーション、まちづくりに関わる仕事をしようとアムステルダムの設計事務所に就職され、その後は建築設計の仕事の傍らアムステルダム市景観委員会委員を務められました。アムステルダムは時代時代の技術をいかして新しいものを建てながら、17世紀以降につくられたさまざまな町並みを維持してきました。17世紀、19世紀、20世紀のエリアで、それぞれデザインやまちづくりの基準を決める、建築家や歴史の専門家による景観委員会の仕組みを紹介されました。教会の空き家化を防ぐため、教会と事務所の機能を取り入れる再生プロジェクトや、18戸の住宅を住民と開発したオランダの事例をもとに、まちづくりに建築家に関わることの意義について話されました。

「まちづくりは今だけではなく、これから生まれてくる人の繋がりを含めて形づくっていくものを、一つ一つ今の私達がつくっていくことではないか」とまちづくりのエッセンスを捉えておられました。



吉良森子氏

住民の生活とのバランス大事に

講演に続き、若村亮さんと吉良森子さんが、京都とアムステルダムの観光と、住民の生活とのバランスについて、意見を交換しました。京町家をいかしたツアーを企画している若村さんは、「京町家が残っても、そこで受け継がれてきた暮らしの文化が失われては困る」と課題を投げかけ、吉良さんは、「都市が生き続けていなければ、観光してもつまらない。その舵取りは難しいが、観光对生活として対抗させるのではなく、観光をチャンスと捉えて、京都の暮らしや文化を豊かにする可能性はないでしょうか」という吉良さんの問いに、若村さんは「観光で京町家に入ることは意識を変えるチャンスになるでしょう」とお答えになりました。旅行が好きな吉良さんは「旅行者には、訪れるまちを大切にしたい気持ちがある。外から入ってくる人の力をうまく使うのもありではないでしょうか」とお話しになりました。



若村亮氏

観光のデジタル化に期待

続いて岩村水樹さんが観光都市の情報発信についてご講演されました。Googleと自治体などが協力したポストンでの防災まちづくりやニューヨークでの情報インフラの整備にIT技術をいかした先進事例などをご紹介します。また、全国にある中小企業のビジネスのデジタル化を推進する「イノベーション ジャパン」で、最も期待されている分野の一つが観光業のデジタル化です。いつでもどこでもモバイルで検索して情報収集する旅行者の動き、SNS映えに着目する必要があるとご説明され、「歴史と文化、伝統工芸など、京都の魅力を発信して、すばらしいまちづくりを目指していただければ」と要望されました。事業情報を掲載できるGoogle マイビジネスなどのサービスについてもご紹介され、シンポジウムの終了後、Google マイビジネスの使い方を説明するワークショップが開かれました。



岩村水樹氏

文化、歴史、地域の力いかそう

最後に財団会長でもある門川大作京都市長が「20周年、本当に尊い輝かしい20年に敬意を表したい。設立当初、地元である龍池小学校に拠点をおいていたまちセンに親しみを感じてきました。市民、企業、行政が一丸となって、京都の文化力、歴史力、地域力を再認識する必要があります。景観も文化も観光も、一つのものとして共に頑張っていきましょう」とご挨拶され、シンポジウムは盛況のうちに終了しました。まちづくりの新しい潮流について話し合い、今後のまちセンの活動においても示唆に富む充実したひと時となりました。



門川大作京都市長

立ち止まって考える 未来のまち



京都市景観・まちづくりセンター
設立20周年記念事業 新春公開座談会を開催

夢を語る－京都の景観・まちづくり・京町家

京都市景観・まちづくりセンターの設立当初、評議員に就任し、現在も役員を務めている5名が登壇し、設立20周年を記念した「新春公開座談会」を1月13日に開催しました。まちセンの20年間の事業やご自身の専門の領域から、京都のまちづくりについて振り返り、これから理想とされるまちづくりについて語り合っていました。



栗山裕子氏



高田光雄氏



長谷川和子氏



東樋口護氏



宗田好史氏

日時 平成30年1月13日(土) 14時～16時
場所 ひと・まち交流館 京都 2階 大会議室
登壇者 栗山 裕子氏
(WIN一級建築設計事務所主宰、(一社)京都府建築士会監事)
高田 光雄氏
(京都美術工芸大学教授(工芸学部長)、京都市大学名誉教授)

長谷川 和子氏
(株)ケイアソシエイツ代表、(株)京都クオリア研究所取締役
宗田 好史氏(京都府立大学副学長、和食文化研究センター長)
進行役 東樋口 護氏
(一社)住宅長期支援センター理事長、公立鳥取環境大学名誉教授
参加者 122名

あわせて開催しました

京都市景観・まちづくりセンター設立20周年記念事業 平成29年度京町家まちづくりファンドまつり

オープンハウスとして、京町家まちづくりファンドを活用し、改修した5軒の京町家の見学会を開催しました。寒い中にも関わらず多くの方にご来場いただき、今後の京町家保全・再生につながる有意義なものになりました。また、ファンド感謝祭では彬子女王殿下に京都や伝統文化についてご講演いただくとともに、これまでのファンド改修助成事業について振り返り、ご来場のみなさまとともに伝統文化を未来に伝える意義を改めて考えました。

- 1 オープンハウス
日時 平成30年1月～2月に順次開催。
- 2 京町家まちづくりファンド感謝祭
日時 平成30年2月10日(土) 13時30分～16時
場所 新島会館 2階 大ホール
(京都市上京区寺町通丸太町上る)

詳しくは平成30年
6月発行の「京まち工房83号」
で特集します

座談会ではまちセンの20年間の歴史を振り返りつつ、将来を展望しました。

栗山裕子さんは、「京町家の保存・継承については、条例化など、成果をあげることができました」としつつ、「景観については、もっと市域全体を視野に踏み込んでよかった。京都には町家もあれば、近代建築もある。色々な建物が織り成す京都のはず」。まちセンの今後には人材が大切とし、「まちづくりは10年、20年経たないと目の目を見ない。まちセンで育った優秀な人が京都で頑張れるようにしてほしい」と話しました。

高田光雄さんは「まちセンの20年は、バブル崩壊の後遺症の治療からスタートした」と振り返りました。当時は一般市街地の中でマンション建設をめぐる紛争が絶えませんでした。その背景には、地域コミュニティに亀裂が入っているという深刻な問題がありました。ただ、高田さんが関わったケースでは、外部の専門家を含めて関係者が熟議する中で、異なる価値観の人同士に新たな価値の発見、共有が実現したものもありました。「三条通には色々な時代の建物があり、そこに楽しさがある。京都のまちも、異なる価値観が共存しているところが魅力」と話しました。

長谷川和子さんは、KBS京都のプロデューサーとして討論番組を制作した時の経験から、最近は町家の力が落ちてきていると指摘し、「市民力を高めるため、外部の人間の力を使うことが大切」と話しました。「日本の社会は縦割りになり、たこつぼ化している。様々なマネジメント能力を持った人を集めて、イノベーションを起こしてほしい」と、まちセンへの期待を語りました。

宗田好史さんはまちセンが果たした役割を「メディエーター、いわゆる仲介をする役割を持った人を大量に招いたこと」と位置づけました。2040年には全世帯に占める一人暮らしの割合が4割に達するため、「地域社会がどう変わっていくかが、今後の大きな課題」としました。「町家の再生、町並みや景観を守ることは、社会の規範が表れたものを次世代につなげること」と話しました。

最後に東樋口護さんが「まちセンは価値観の共有ということから出発し、パートナーシップの手法を確立してきました。衰退する地域、観光、教育など、色々な問題がありますが、異なる価値観をもつ者同士、どのように協働していくのが、次の20年間の役割のように思う」とまとめました。



京都市景観・まちづくりセンター設立20周年記念事業 歴代次長座談会

財団設立20周年記念事業の一つ、歴代次長座談会が、12月22日に開催されました。次長は、まちセンの中で実質的な統括役です。平成19年から27年まで在職した4人の元次長に、当時を振り返っていただきました。一つの事業から新しい関係が生まれ、それがまた次の事業につながっていった様子など、今後のヒントになるお話がたくさんありました。まちセンの必要性を外部にわかってもらう工夫のほか、民泊問題、お寺や神社周辺の景観保護など、期待を寄せる分野についてもご意見をいただきました。



日時 平成29年12月22日(金)
19時～20時30分
場所 ひと・まち交流館 京都 地下1階
ワークショップルーム

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター 事業紹介

地域まちづくりに関する相談をお受けします

まちづくりの課題について みなさんと考えます



まちセンをより身近に感じていただくため、まちセンの業務の一部をご紹介します。
京都市景観・まちづくりセンターが最も大切にしている業務、それは「相談」です。
地域の中で心配事、不安や疑問に思ったことなど、とにかくまずは話を聞いてほしいとき、さまざまなまちづくりの情報を知りたいとき、専門家のアドバイスがほしいとき、そんなときは、まちセン

のことを思い出してください！
「相談すること」で、これまでどうしていいかわからず、先が見えなかったことに新たな局面が見出せることがあります。まちセンの相談窓口は、いつでも皆さんをお待ちしています。
今回は地域まちづくりに関する相談をお受けする「まちづくり相談」をご紹介します。

まちづくり相談・活動支援の流れ (例)

地域の会合や窓口などでは、多くの方から、まちに関する心配事や疑問などの声をいただきます。



まちセンが設立されて20年の間で、寄せられる相談にも時代の変化が感じられます。
まちが変化することへの不安や地域の課題に対して、まちセンは、柔軟な対応力と専門家や行政の窓口など幅広いネットワークで地域の皆さんに寄り添っていきます！
お気軽にご相談ください。

京都 まちセン 相談

相談・支援実績	● 地域まちづくり相談件数	3,680件
	● 専門家派遣地区数	53地区
	● 地区計画策定地区数	11地区
	● 地域景観づくり協議会数	10地区

平成29年12月末時点

平成30年度賛助会員募集中!

当財団は、住民・企業・行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていく、パートナーシップのまちづくりを推進しています。
活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集しています。

年会費	
個人 1口	5,000円
団体 1口	50,000円

入会をご希望の方は当財団にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください！
賛助会員お申込みのご案内ページはこちら → <http://kyoto-machisen.jp/partner>

※当財団の賛助会員は、公益財団法人に対する寄附として、**税の減免措置を受けることができます。**

- 特典1 ニュースレター「京まち工房」の送付
- 特典2 各種セミナー・イベントのご案内 (随時)
- 特典3 当財団ホームページへのバナー掲載 (団体会員のみ)

平成29年度は下記の皆さまにご入会いただきました。ご支援ありがとうございました。

- 個人会員 青木 義照、赤星 周平、秋山 智則、浅田 毅、網野 正観、荒井 孝、荒金 博美、荒川 朋彦、生駒 勲、石原 一彦、石原 敏彦、石村 陸貴、磯林 雅之、伊藤 真嗣、伊藤 正人、稲木 藍、稲波 良幸、井上 誠二、井上 信行、井上 久明、井上 道子、岩井 英人、岩崎 清、岩崎 亘男、上田 菜穂、上原 智子、植村 哲、上村 博、卯滝 朝子、内村 聡子、梅澤 優司、江田 頼宣、魚谷 繁礼、大井 昭美、大井 康光、大岸 薫、大崎 弘晃、太田 滋子、太田 昌志、大西 功、大前 温彦、岡崎 篤行、岡田 圭司、岡田 耕介、岡本 正二、岡本 秀巳、岡山 尚義、奥 美里、尾崎 学、小田 厚子、笠岡 英次、梶山 真樹、香水 謙一、片山 尚彦、片山 隆一、門川 信一郎、狩野 文博、上田 千喜、加味根 徹也、川口 浩、河崎 尚志、河邊 聡、河村 宏、川本 淳一、北岡 愛、北川 洋一、木股 博一、来海 賢一、木村 忠紀、木村 真紀子、刑部 多恵子、桑原 尚史、小嶋 新一、小谷 啓太、小西 二郎、小西 正直、小西 吉治、小林 仁大、金剛 育子、酒井 教昭、坂本 登、坂本 正壽、佐々木 亮太、佐竹 和男、佐藤 友彦、佐藤 七重、佐藤 友一、真田 松寿、鮫島 恵子、志渡澤 祥宏、柴崎 孝之、島田 和明、清水 博之、志村 公夫、杉崎 和久、杉田 実、杉本 圭司、鈴木 知史、鈴木 章一郎、炭崎 勉、関岡 孝繕、高川 祐子、高木 勝英、高木 貴子、高木 伸人、高橋 ありす、高畑 重勝、高谷 和代、高谷 基彦、立石 涼一、田中 照人、田邊 昌士、谷口 一朗、多見 貞子、谷村 寧昭、玉山 千映子、玉山 秀文、寺井 正、寺島 彰、寺田 敏紀、寺田 史子、寺田 泰三、寺谷 淳、寺本 健三、鳥井 光広、内藤 郁子、中井 健一、中川 慶太、中島 吾郎、中島 弘益、中司 小百合、仲西 弘樹、中村 進一、中村 有希、中山 雅永、生川 慶一郎、西川 武士、西澤 亨、西田 祐司、西村 健、野間 久世、齋藤 健夫、橋本 操、畑 正一郎、早崎 真魚、林 建志、林 道弘、林 敬太郎、林 茂、速水 孝治、平井 義也、平竹 洋子、吹上 裕久、福林 文孝、福本 元気、福本 沙和、藤田 裕之、藤原 正行、二松 康、富名腰 隆、船橋 律夫、文山 達昭、古川 吉則、平家 直美、別府 正弘、堀 有輝子、前田 史浩、牧野 忠廣、松井 浩一、松田 彰、松村 互、松本 みどり、丸山 光洋、水谷 新太郎、水口 義晴、宮川 明子、宮川 邦博、宮崎 秀夫、宮村 友子、宮本 日佐美、宮脇 和生、村上 真史、村瀬 和子、村瀬 喜則、望月 幸夫、森川 敏隆、八木 繁紀、安本 典夫、矢田部 衛、柳原 博實、山内 典子、山内 比呂史、山口 真奈美、山崎 正史、山下 僚太、山本 耕治、山本 一博、山本 茂、山本 大策、由里 啓子、横田 政広、吉田 健、吉田 光一、吉田 就一、吉田 友彦、吉田 真由美、善積 京子、吉永 順子、米谷 朋恵、和田野 美久仁、Evan Pearson、Imanuddin Bin Ghazali、Magda Bolzoni、その他氏名非公開33名 (五十音順、敬称略)

- 団体会員 一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会、一般社団法人相続相談センター、大阪ガス株式会社、株式会社アーキスタイル、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹、株式会社ゼロ・コーポレーション、株式会社地域計画建築研究所、株式会社中蔵、株式会社八清、株式会社フラットエージェンシー、株式会社都ハウジング、『京ぐらし』ネットワーク、京都駅ビル開発株式会社、京都信用金庫、京都ライフラインソリューション株式会社、ぐるっとVIEW、公益財団法人国際交通安全学会IATSSフォーラム、公益社団法人京都市観光協会、サッポロホールディングス株式会社、be京都、平安建材株式会社、立命館大学歴史都市防災研究所 (五十音順、敬称略)



スタッフのつぶやき

スタッフA.N.

去年の5月から賀茂川のほとりの築50年近いマンションに住んでいます。内釜式のお風呂をはじめ、設備は古いもののレトロな雰囲気と明るい環境が気に入っていますが、最上階の角部屋で断熱もされていないので、冬の寒さは厳しいです。
中でも困っているのは、結露がすごい事で、窓はもち

ろん外気に面している壁が水浸しになってしまい、家具や本が濡れないように気をを使う毎日です。
最近の新しい建物であればこんな苦勞もしなくて良いのでしょうか、その分、春を待つ気持ちが強くなります。
家の前の川沿いには桜並木があり、もうすぐここに住んで初めての桜を見られるのを楽しんでいます。

